



TAMA river 1972 >> (生活排水で水面が泡立つ・東京都大田区)

# 歴史の教訓、下水道の使命



(東京都世田谷区)

>> 2022



一般社団法人  
東京下水道設備協会  
三井田 健 会長

1960年代後半から1970年代前半、東京の河川の水質は、下水道未普及地域からの家庭排水や工場排水などの流入により、「死の川」と呼ばれるほど深刻な悪化を経験しました。この状況を改善するために、下水道の普及が重要な役割を果たしました。下水を処理して、きれいにしてから河川や海に放流するために、水再生センターには、流入する大量の汚水や雨水を地下深くからくみ上げるポンプ設備や、汚水から汚濁物質を沈殿分離してきれいにする沈殿池・反応槽設備、そして沈殿した汚泥を脱水・焼却

処理する汚泥処理設備があります。さらに、これらの設備に電力を供給する電気設備や、機器を操作・制御する監視制御設備、停電に備えた非常用発電機も重要な役割があります。一般社団法人東京下水道設備協会会員は、日本最初の下水処理場である三河島水再生センターをはじめ、東京都の20の水再生センターや87のポンプ所などの施設に、こういった機械・電気設備を納入しています。私たちの会員企業は、今後も温室効果ガス排出削減など、時代の要請に応えるために努力し続けます。



東京都下水道局  
佐々木 健 局長

東京の下水道は、1884(明治17)年の「神田下水」に始まり、1922(大正11)年には日本最初の下水処理場「三河島汚水処理場」(現在の三河島水再生センター)が運転を開始しました。その後、戦後の経済復興と高度経済成長に伴い、1960年代後半から河川や東京湾の水質は悪化し、生活環境の改善を図るため下水道の整備が強く求められました。現在では、下水道の普及により大幅に水質改善が進み、都民の皆さまに親しまれる水辺空間へと生まれ変わっています。

一方で、初期に整備された下水道管や水再生センターなどは老朽化が進んでおり、さらに、気候変動に伴い激甚化・頻発化する豪雨に対する取組の強化も求められています。そのため、合流式下水道の改善や処理水質の向上など、良好な水環境の創出に貢献する施策を推進し、老朽化施設の再構築や浸水対策など、都民の安全を守り、安心して快適な生活を支える施策を着実に進めていきます。同時に、地球温暖化対策として温室効果ガス排出削減の取組を加速・強化していきます。



一般社団法人 東京下水道設備協会

アクアインテック株式会社 / 株式会社石垣 / 岩尾磁器工業株式会社 / 株式会社荏原製作所 / 株式会社クボタ / 三機工業株式会社 / 住友重機械エンバイロメント株式会社 / 株式会社タクマ / 月島アクアソリューション株式会社 / 株式会社電業社機械製作所 / 東芝インフラシステムズ株式会社 / 巴工業株式会社 / 株式会社西島製作所 / 株式会社日立インダストリアルプロダクツ / 株式会社日立製作所 / 日立造船株式会社 / 株式会社日立プラントサービス / 前澤工業株式会社 / 三菱化工機株式会社 / 三菱重工環境・化学エンジニアリング株式会社 / 三菱電機株式会社 / 株式会社明電舎 / メタウォーター株式会社 (五十音順)